

クボデラ SDGs チャレンジ 2021 議事録③

ステップ3 目標を設定する

SDGs 推進委員会 2021 年5月

ここでは、①当社の SDGs への目標について協議して決定する、②目標に向けて確実に取り組めるように主要業績評価指標を設定する、③自社の目標を公表するといった作業を行います。

公表前の SDGs 目標素案は当社取締役会に提出し、取締役会での検討を経て、対外的に当社の SDGs へのコミットメントを公表します。

目標設定の手法としては、過去のデータや現在の潮流、同業他社の目標などを元に社内の都合を優先した目標設定(インサイド・アウト・アプローチ)とするのではなく、アウトサイド・イン・アプローチ、即ち世界的・社会的ニーズから自社事業で対処できるニーズを選び、望ましい未来を描いた意欲的な目標設定することで、宣伝効果や同業他社へ働きかけるなどの効果が見込まれます(第二部参照)。

ステップ2で決定した優先課題について、具体的な取り組み数値を決めていきます。ここでの作業は、①ベースラインを設定し目標タイプを選択する、②ベースラインとして特定の地点や期間を設定する。

特定の地点とは、例えば、

2015 年末と比較して 2025 年末に〇〇の数値を〇%減少させる

特定の期間とは、例えば、

2023 年から 2025 年の 3 年間の〇〇の数値を、2013 年から 2015 年の 3 年間と比べて〇〇%増加させる

例えば、製紙会社では「パルプを製造するなど事業活動に伴って排出される温室効果ガスを 2015 年から 2020 年までに 25%削減する」などが考えられます。中長期的に達成を目指す目標に主要業績評価指標を設定しておけば、自社の SDGs への取り組みの状況をステークホルダーに対して発信できます。

目標には意欲度を盛り込むことも重要です。例えば大手自動車メーカーでは、2030 年に乗車中の死亡事故および衝突による歩行者・自転車などの死亡事故をゼロにすることを目標に掲げています。

意欲的な目標とは、数年先ではなく長く時間軸を取った未来での達成を目指すこ

とです。ただし、時間軸が長くなるほど説明責任が曖昧になるため、主要業績評価指標の設定が重要です。主要業績評価指標を設定することで、目標の期限や進捗状況の測定が可能になります。

5月2回目の打ち合わせでは、6月の取締役会に提出する素案をまとめます。これまで話し合ってきたことを整理します。素案は事務局で作成し、委員で検討していただきます。委員の承認を経て6月の取締役会に提出する段取りとなります。当社監査法人であるPWCは国連が発行している「SDGsを企業報告に統合するための実践ガイド」の製作にも携わっています。

取締役会での検討を経て公表作業を行います。目標公表のメリットは、目標達成に向けて社員や取引先のモチベーションが上がる、自社の目標が外部ステークホルダーとのSDGsに関する対話の土台になるなどです。

一方、目標公表のデメリットは、目標が達成できなかった場合に批判を受けることです。目標公表のデメリットへの対処法は、自社の目標への取り組みに関する透明性を確保することです。事前に決めたスケジュールに合わせて、取り組み内容・達成状況・課題などに関する情報を、ホームページやプレスリリースで発信すれば、取り組みの現状が公表でき、透明性の確保につながります。

社内および対外公表は事務局で行います。当社ホームページでの公表を軸に、主要報道機関へのリリースなどを実施します。また東証への開示が必要であれば検討することにします。SDGs宣言に含める基本的な事項は下記の通りです。

- ① 冒頭の宣言文に経営理念を盛り込む
- ② 貢献できる目標や重点課題を盛り込む
- ③ SDGs宣言の公表日を盛り込む
- ④ SDGsの説明を盛り込む
- ⑤ SDGs宣言をつくるまでの歩みを公表する